



知財部門における生成AI活用

レベル1（探索・理解フェーズ）

公開済み情報を活用し、工数削減＋高付加価値成果を実現

レベル1の基本方針



公開済み情報のみ利用

秘密保持リスクなし



小さく試す

部内PoCで成果を可視化

成果の2軸

1. 工数削減

業務効率化により時間とコストを削減

2. 高付加価値

新たな視点・示唆により意思決定を支援

ユースケース①：公開特許の課題・解決・効果抽出

🎯 目的

発明の本質を短時間で把握

📄 プロンプト例

特許公報の内容から①課題 ②解決手段 ③効果を抽出。
過去3年の同出願人特許と比較し進歩点を指摘。

📊 成果

🕒 工数削減

特許の精読と理解にかかる時間を大幅削減

精読 1時間

→

15分

💡 高付加価値

- ・ 競合の進化トレンドを抽出
- ・ 複数特許の比較による技術進化の可視化
- ・ 新たな開発ヒントの発見

ユースケース②：用途マッピング

🎯 目的

特許群から用途展開の方向性を発見

📄 プロンプト例

公開特許群から用途を抽出し、行＝用途領域、列＝出願人でマトリックス整理。
未活用領域を指摘。

	A社	B社	C社
医療	✓	✓	
自動車	✓		✓
農業		💡	✓

📊 成果

🌱 工数削減

特許群の用途分析と整理にかかる時間を削減

半日

→

30分

💡 高付加価値

- ・新規市場の発見
- ・他分野への応用機会の特定
- ・競合が未進出の空白領域の可視化

ユースケース③：特許×論文×ニュースのクロスインサイト

🎯 目的

業界トレンドを多角的に把握

📄 特許

📄 論文

📄 ニュース

🗂️ プロンプト例

特許＋論文＋ニュースを統合し、
①技術トレンド ②競合の強み・弱み ③事業インパクト を3点で整理。

📈 成果

🧠 工数削減

- ・複数情報源の調査・分析・まとめ作業を短縮
- ・異なる形式の情報を統合的に処理
- ・クロスデータ分析の効率化

💡 高付加価値

- ・経営層に『経営の言葉』で伝える資料化
- ・多角的視点による新たな洞察の提供
- ・意思決定に直結する情報の統合

ユースケース④：公開特許を用いた発明評価の模擬実験

🎯 目的

公開特許を題材に、評価支援ワークフローを模擬実験

📄 プロンプト例

公開済み特許を比較対象にして、
①新規性 ②進歩性 ③事業可能性 を評価。
根拠となる特許番号を併記。

📈 成果

🍄 工数削減

発明の初期評価にかかる時間を大幅短縮

初期評価 数時間

→

30分

💡 高付加価値

- ・将来的に未公開アイデアへの適用を見据えた実証
- ・評価プロセスの標準化と品質向上
- ・発明者へのフィードバック効率化

まとめ



公開済み情報のみ利用し、レベル1での小さな成功体験を積み重ねる

段階的な成功体験を通じて、組織内での生成AI活用の理解と価値を醸成



工数削減と付加価値の可視化

定量的な効果（時間短縮）と定性的な価値（新視点・示唆）を明確に提示



成果の部門内外共有と経営層巻き込み

横展開による組織的な活用促進と、経営視点での価値創出への理解獲得